

氏名	酒井 利恵		
学位の種類	博士（ヒューマン・ケア科学）		
学位記番号	博甲第	8651	号
学位授与年月	平成	30年	3月 23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	東日本大震災により影響を受けた子どもの精神的健康及びレジリエンスに関する研究		
主査	筑波大学教授	博士(ヒューマン・ケア科学)	松田ひとみ
副査	筑波大学准教授		飯田浩之
副査	筑波大学准教授	博士（医学）	森田展彰
副査	筑波大学准教授	博士（医学）	笹原信一郎

論文の内容の要旨

酒井利恵氏の博士學位論文は、東日本大震災を体験した被災地生徒と被災地外生徒のメンタルヘルスやレジリエンスへの関連要因を比較検討したものである。その要旨は以下のとおりである。

研究1

（目的）

著者は横断的調査によって、被災地と被災地外の子どものパーソナリティ特性、精神的回復力、メンタルヘルス、支援認知について、それぞれの関係性を検討することを目的としている。

（方法）

1. 参加者：平成23年度から被災地内と被災地外生徒555人（男子276名、女子279名：中学1年から3年）への調査を開始している。被災地の生徒を受け入れているX県の公立中学校の協力を得て実施している。

2. 調査内容：著者は、質問紙により、①精神的回復力とメンタルヘルスとの関係、②支援認知と精神的回復力との関係、③個人的要因であるレジリエンスに関連するパーソナリティ特性（主観的幸福感、「楽観性」、「自己価値感」、「問題解決型行動特性」「対人的傷つきやすさ」）が精神的回復力に与える影響、および④パーソナリティ特性と環境的要因として作用する支援認知との関連性について調査している。

3. 統計学的解析

①から④については重回帰分析と共分散構造分析により比較検討することとしている。

（結果）

被災地の生徒とそれ以外の生徒の間では、精神健康状態に有意差はみられず、精神的回復力（レジリエンス）とメンタルヘルスに相関関係を見出している。また重回帰分析により、精神的回復力はメンタルヘルスの重要な要因であることや、被災地生徒の方が標準偏回帰係数および重決定係数は高い数値を示している。支援認知と精神的回復力の関係では、家庭外支援認知から精神的回復力は被災地の生徒の方が高く、パーソナリティ特性が精神的回復力に与える影響では、被災地生徒は、

家族内支援認知では「主観的幸福感」が、家庭外支援認知では「楽観性」が有意な傾向を示していることを導き出している。また被災地外の生徒においては、「主観的幸福感」、「問題解決型行動特性」、「楽観性」が有意であることなどを明らかにしている。

研究 2

(目的)

著者は、縦断的調査による子ども達の震災当時からの時間の経過による変化とともに体系的に検討していくことを目的としている。

(方法)

参加者は、全 3 回の調査のうち、調査開始時の 2011 年度 (Time1;2011 年 12 月) に中学 1 年から中学 2 年であり、2012 年度① (Time2;2012 年 6 月) と 2013 年度② (Time;2013 年 1 月) に中学 2 年から中学 3 年であった 344 人としている。

(結果)

被災地・被災地外の生徒別と時間を 2 要因の分散分析で分析し、家庭外支援認知においてのみ、Time に単純主効果の有意差が見られたが、他の尺度において有意差は見られていない。またメンタルヘルス尺度より「精神的回復力」や「支援認知」と精神的回復力尺度により比較しているが、有意差が示されなかったとしている。

研究 3

(目的)

災害後から 3 年間の時間的経過における個人の心理的な内面を明らかにするため、生徒たちの語りから得られる心理行動特性について明らかにすることを目的としている。

(方法)

著者はインタビュー調査により、困難な体験とその後のプロセスが具体的に語られた 3 人を分析対象者としている。修正版グランテッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) 法によって分析し、逐語記録から対象者の内面的世界を通してデータの意味を解釈している。

(結果)

38 の概念をカテゴリー化し、18 個のカテゴリーが作られたが、さらに上位のカテゴリーとして、【恐怖・不安・パニック】、【心の安堵】、【家族や身近な人への想い】、【故郷への想い】、【避難先 (現在地) での不安や不満】、【克服や成長】、【未来への展望】の 7 つが生成されている。

(総合考察・結論)

著者は、本研究において被災地生徒は、支援認知に関して直接メンタルヘルスに影響するのではなく、「主観的幸福感」、「問題解決型行動特性」、「楽観性」のパーソナリティ特性や「精神的回復力」がレジリエンス性を高め、メンタルヘルスに影響していることを明らかにすることができた。また被災地外生徒は、「主観的幸福感」、「問題解決型行動特性」、「楽観性」の 3 つが「精神的回復力」との関連することを導き出している。

審査の結果の要旨

(批評)

酒井氏は、東日本大震災を体験した被災地生徒と被災地外生徒のメンタルヘルスやレジリエンスの関連要因を比較検討するために被災地に赴き、インタビュー調査をはじめとして生徒たちの内面的な状態を捉える調査を行うことができた。結果として、被災地生徒は「主観的幸福感」、「問題解決型行動特性」、「楽観性」のパーソナリティ特性や「精神的回復力」がレジリエンス性を高めることを明らかにしている。これらの研究の成果は、被災地生徒への支援のための方策を見出す一助となる可能性があると考えられた。

平成 29 年 12 月 20 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士 (ヒューマン・ケア科学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。